

柵の木からの手紙

2025年 如月 2月号



3日：立春

11日：建国記念の日

12日：満月：旧 1月15日

18日：雨水

28日：新月：旧 2月1日

この冬は、雪が少なくトラクターでの除雪はまだ4回。7月初めに2頭の愛犬の最後の1頭が亡くなってからは、有機の畑まで歩く事も少なくなりこの冬も同じ。2月1日、久しぶりにスコップを杖代わりに有機畑の途中まで散歩。枝木の畑への飛散は少なく、動物たちの足跡も少なく感じる。散歩の途中、持っていたスコップでガードレールの端の雪を除雪時に見やすい様に取り除しておく。

昨年2024年、通常国会に於いて「**食料・農業・農村基本法**の改正」の中で、次の三つの法案が通過した。

- ・食料供給困難事態対策法 新規制定
- ・農業振興地域の整備に関する法律（農振法）改正
- ・スマート農業技術活用促進法 新規制定

2016年3月1日 キャメル クー とともに8歳

特に問題視されている**食料供給困難事態対策法（有事食料法）**は、「重要品目の供給が平時と比べて2割以上減るなど国民生活の安定に支障が生じると判断された場合には「食料供給困難事態」と認定。輸入・生産拡大や出荷・販売調整の計画作成と届け出を指示し、従わなければ20万円以下の罰金を科す。」とされている。（2024年6月14日成立。2025年4月1日施行されます）。

食料供給困難事態対策法案に基づく対策の流れ

食料供給
困難兆候

出荷・販売の調整、輸入の促進、生産・製造の促進をそれぞれ**各事業者（流通事業者・生産者等）**に要請

対策本部
による公示

食料供給
困難事態

要請で不十分な時は、出荷・販売、輸入、生産・製造についてそれぞれ**計画を作成し、届け出ることを指示**

※計画の届出をしなかった場合→罰金
正当な理由なく計画に沿った取り組みを行わない場合→公表

供給量が
不十分な場合

計画の変更を指示

※計画に基く生産等が行えなくても罰則なし

何故か法案成立後、秋にはスーパーから米が消え価格が高騰し始め、他の野菜、日用品までもが高くなっている。燃料も上がる一方。食料不足、物価高を演出？（輸入するはずではなかったのか？備蓄はどうなってんの？）コロナの時も多分そうだろう。

有事という言葉は戦争を意味して使われる様に感じている。

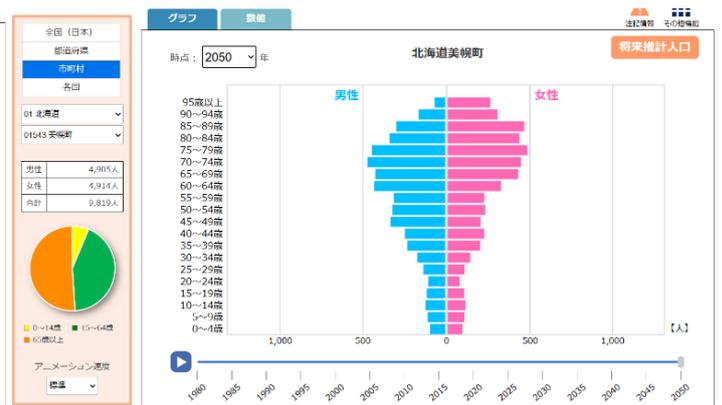
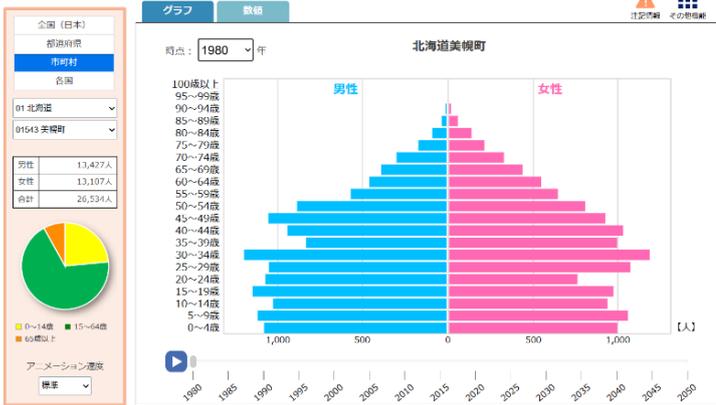
気候変動、紛争事態の下で食糧増産は、現実的ではない！世界のシナリオが用意されていて？国民に気付かれない様に突き進んでいる怖さ。

美幌町の

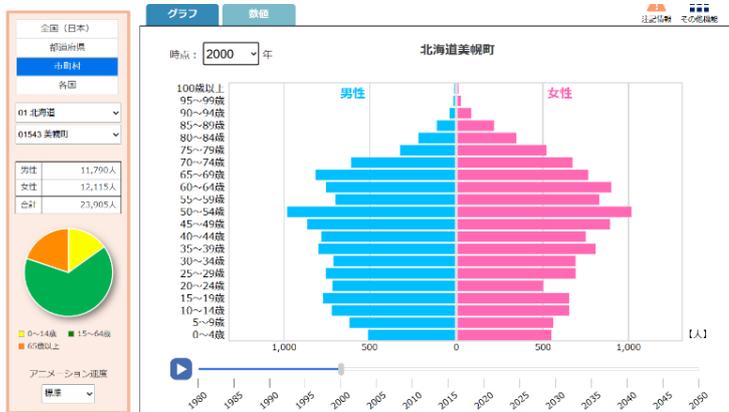
1980年から2050年 人口ピラミッド図 政府統計 e-Stat より

1980年 人口

2050年 推計人口



2000年 人口

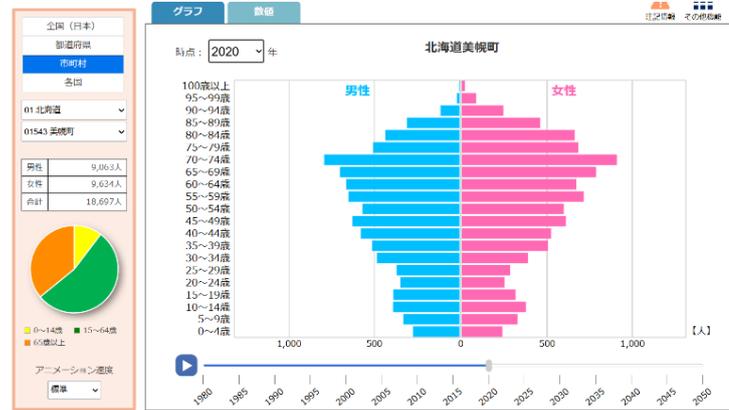


人口ピラミッドの左側の円グラフで黄色は14歳以下、緑色は15歳～64歳の就労人口、橙色は65歳以上の美幌町の人口。黄色が減少して橙色が増え緑色の就労人口が減少してくる。

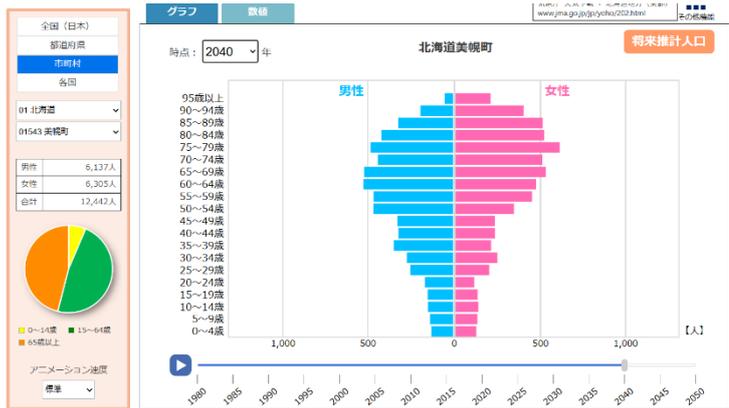
2050年には美幌町の人口は現在の半分に減少し、労働人口一人当たり一人の高齢者が年少者をおぶりながら働く状況が予想されています。

【2016年美幌町の産業・雇用創造チャート】

2020年 人口



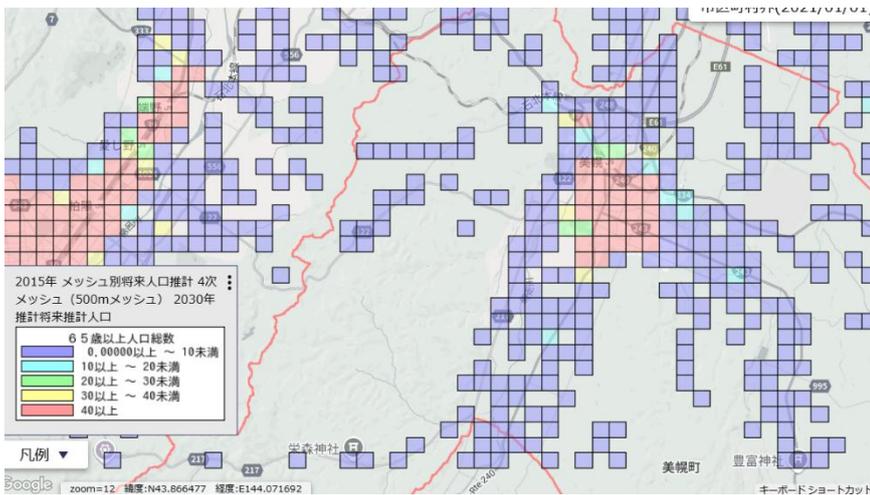
2040年 推計人口



上の図で横軸は収益力。中央がゼロで右がプラス。左がマイナス。縦軸が雇用吸収力。赤矢印の下の赤丸は農業の位置。収益力は高い方だが、現実問題として農業を志す後継者が少なく高齢化が進んでいます。

先に示した食料・農業・農村基本法の改正は、農業就労人口の減少を見越して農地の再編成拡大やスマート農業導入による規模拡大を狙う面もあるのかもしれない。それにしても、大国からの危ない農産物の輸入拡大が妥当かな？表示義務も無いに等しいのだから。

2030年 美幌町の 65歳以上人口推計 (500m四方の人口で赤は40人以上)



日頃から、積雪時期には特に、街へ出た時に意識して通る家の前。意識して農産物等をお裾分けしながら直接様子を伺う家。

今迄、沢山の方々に農家の仕事上お世話になっている。家族だけでは仕事にならず、手伝ってくれる人たちが居ないと生活が成り立たない。

1月下旬、子供たちが小学生の頃に街の文化祭で知り合って、運動会

や文化祭にまで見に来てくれた方があっけなく亡くなってしまった。しかも、自分の手で病院まで運んだ方が・・・。

知り合ってから子供たちがカナリアを籠毎頂いてきて、カナリアという小さな命に子供たちは向き合っていました。1ヶ月程で死んでしまったが、子供たちにとっては、死という事を感じた良い機会だったと思う。その後、2羽のカナリアを頂いて、しばらく鳴き声を楽しませて頂いていました。

小学校の運動会や中学の体育祭には夫婦で顔を出して楽しんでくれていました。

先月1月28日午後は、私が大腸カメラを受ける日で、妻が街へ出た帰りにその方の家に寄っておばさんからおじさんの話を聞いて私に連絡が来て、私が病院の帰りにその方の家に立ち寄って、病院へ行く様に勧めても当の本人が行かないという状態。トイレで転んだという事で手や腕に血の滲んだ包帯を巻いている。私が30分ほどして帰ろうとした時、包帯から血が垂れるのを見て「夜になって奥さん1人で手に負えないから病院へ行くぞ！」と意を決するとおじさんもその気になって、直ぐに支度をして車にご夫婦を乗せて本人が行き付けの国保病院へ午後4時頃到着。

2010年6月13日 小学校運動会



2012年5月26日 中学校体育祭

検査をして入院が決まり、後日妻が伺った折に、おじさんが「入院して良かった」と言っていた事をおばさんより伝えられたと話、私もホッとしていました。

2月2日に、妻におばさんから連絡があり、おじさんが逝去した事を伝えられ・・・

2月5日通夜、6日告別式。

少子高齢化の人口減少の時代、今を生きる残された私たち一人一人が出来る範囲で社会を気に掛け見守り、生まれ来る命も見守り育てる事が、人口減少時代の在り方かと思えます。今迄の様な価値観とは違った在り方がこれからの生き方。そんな方法を見つけて実践したいものです。